

【松村主宰の俳句】

冬
帽

松村五月

黄昏のはじまり落葉踏みてより
南国の果実重たし夜の秋
豆を煮るひと日を賜いもずの声
晩秋というは酸っぱく柔らかい
つぶあん派こしあん派論神無月
鶉の鳴く帰り道ゆえ帰れない
ぶどう熟る夜の気配をまといては
烏瓜見てそれからの薄日かな
晩秋の陽差しは母の匂いして
冬帽の似合いし父よ起きたまえ